

## ■ ルック&フィールを強化し、開発機能を追加した RTView® 新バージョン 6.7 リリース

### 性能監視ダッシュボードのカスタム構築と運用をさらに支援

2016年2月24日(日本時間) プレス・リリースより

リアルタイム・データのグラフィックな可視化と監視ツールの提供でリードする SL ジャパンは、RTView の最新バージョン 6.7 のリリースで、インフラ監視からオペレーション、サービスやビジネス・アクティビティ監視まで、さまざまな性能監視におけるカスタム・ダッシュボードの柔軟かつ迅速な開発と運用で、さらなる新機能ならびに拡張機能を追加したことを発表しました。

RTView は、各種の標準的なデータ・アダプタならびにカスタム・データ・アダプタによって既存の性能データに接続し、サービスやオペレーションに応じてリアルタイムに可視化して監視できるダッシュボードを、ポイント&クリックのビルダーを使って対話的にカスタム構築できるツールです。

RTView 新バージョン 6.7 における主な拡張内容は次のとおりです：

- タブ、ツリー、アコーディオンのルック&フィール強化
- マルチパネル・レイアウトの機能拡張
- RTView データ・サーバとキャッシュの管理機能の拡張
- Red Hat Enterprise Linux 7 のサポート追加
- 特定のクエリ実行を制御できる新しい SQL クエリのスケジューラ
- Kendo グリッド(テーブル)ならびにチャートを含む HTML5 オブジェクトの強化
- RTView のビルダーから編集して実行できるカスタム Java メソッド



RTView 新バージョン 6.7 で拡張された、タブ、ツリー、Kendo グリッド(テーブル) 機能などを使用したインフラ監視画面例



RTView ディスプレイ・サーバによって iPhone で運用される高対話性の Web シンクライアント

## RTView® による IoT データ監視ダッシュボード構築例【新デモビデオ】

RTView は、さまざまな既存のリアルタイムな性能と可用性データに接続し、お客様のサービスやオペレーションに応じて、可視化と監視ダッシュボード/システムを、自由自在に『カスタム構築』できるツールです。

どのような性能データやシステムにも容易に接続できる RTView では、IT インフラが支えるビジネス、オペレーション、サービス管理など、多種多様の関連する性能指標データを複合的に集約することが可能です。また、データベースや運用管理ツールに集約された、複数のデータセンター、工場、プラント、ビルなどにおける、さまざまな既存の性能監視データを容易に一元可視化することができます。

さらに昨今の IoT 普及に伴い、性能監視データはますます多様化し、ランダムに発生する多数のアラートがさらに氾濫します。これらを集約し、複雑で分散した多層アプリケーション・システム全体で、またそれが支えるサービスやオペレーション全体で、今この瞬間に何が起きているのかを包括的かつリアルタイムに可視化する性能監視システムを、容易にカスタム構築できるのが RTView です。



☆「RTView による IoT データ監視ダッシュボード構築例」デモビデオ(0分57秒)：

[http://www.sl-j.co.jp/demovideo/ertv/RTV\\_IoT\\_data/RTV\\_IoT\\_data.html](http://www.sl-j.co.jp/demovideo/ertv/RTV_IoT_data/RTV_IoT_data.html)

# SL-GMS の DXF 変換ツールで既存の CAD 画面を活用

SL-GMS 開発ツール各製品 (Microsoft .NET, Java, C++) には、CAD 図面の標準形式である DXF (Drawing Exchange Format) ファイルを SL-GMS のモデル・ファイル (ベクトル・データ) に変換するコマンド・ツール dxf2g が同梱されています。

この dxf2g 変換コマンドによって、CAD 図面の DXF ファイル (例えば、AutoCAD LT からは R12 形式、Adobe Illustrator CC からは R13 形式でエクスポート) を変換し、SL-GMSDraw エディタで動的属性を設定することが可能になります。また、PDF から DXF に変換するフリー・ツールを利用し、PDF 化された図面を SL-GMSDraw に取り込むことも可能です。

各ツールは同一の DXF バージョンであっても異なる要素/方法で図形を形成する場合がありますので、事前に使用するソフトから生成される各図形が dxf2g コマンドでどのように変換されるかをご確認ください。



元の DXF ファイル



dxf2g 変換結果



SL-GMSDraw で動的属性を設定

☆詳細については、製品マニュアルに記載の他、保守ユーザー様向け「SL-GMS ドキュメンテーション・サイト」に技術資料がございます。  
☆以外のお客様は、info@sl-j.co.jp 宛またはお問い合わせ@ホームページよりご請求ください。

## SL-GMS Developer for .NET でテロップを作成【新デモビデオ】

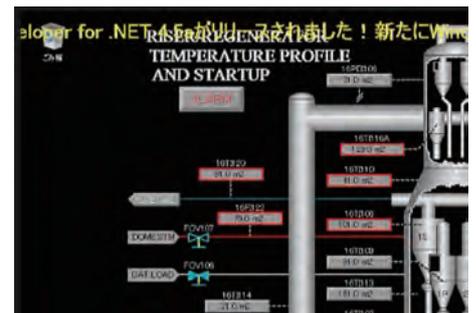
駅や列車内の電光掲示板などでよく見かける「テロップ」を、SL-GMS で開発した監視画面の一部に表示する新しいデモサンプルをご紹介します。「テロップ」とは、ユーザにとって有用な情報をスクロールするように流して注意を喚起する表示のことです。

テロップ表示に使う SL-GMS モデルの作成は極めて簡単で、情報を表示する文字列を単に移動させるだけです。そして、テロップ表示する情報は、Web サービスやデータベースなど、どこからでも取得可能です。テロップ表示を利用して、SL-GMS で開発した監視画面にタイムリーな情報を流すことができます。

☆「SL-GMS Developer for .NET で簡単テロップ表示」新デモビデオ (1分18秒):

<http://www.sl-j.co.jp/demovideo/dotnet/terop2/terop2.html>

☆テロップ表示の技術資料ならびにサンプル・プログラム(\*)は、保守ユーザー様向け「SL-GMS ドキュメンテーション・サイト」より、ダウンロードできます。(\*) SL-GMS Developer for .NET と SL-GMS C++/Developer の両製品でサンプル・プログラムをご用意しています。



SL-GMS 監視制御画面の上から右から左へ流して表示される黄色いテロップ

## ユーザーにも好評！ SL-GMS 構築技法セミナー開催のご案内

### SL-GMS による、比類なく高速な監視制御システムと その専用カスタム・エディタ「構築技法セミナー」開催のご案内

2016年6月3日 (金) 15:00-17:00 (無料・事前登録制) @TEPIA (東京・青山)

☆必ず役に立つさまざまな技法のデモと事例による具体的な解説で

ユーザーにも好評の「SL-GMS 構築技法 (.NET, Java, C++) セミナ」:

[http://www.sl-j.co.jp/newsevents/seminar/seminar\\_dotnet.shtml](http://www.sl-j.co.jp/newsevents/seminar/seminar_dotnet.shtml)

- SL-GMSDraw エディタ (.NET, Java, C++ 共通) で、動的属性を持ったグラフィカル・モデルをアプリケーションから独立して対話的に作成し、即座にその動的振る舞いをプレビューして確認
- .NET Framework における Visual Studio 2015 (Windows 10) を使った Windows フォーム・アプリケーションの開発
- 透過的な Web 運用選択肢、リモート・デスクトップ運用、モバイルへの画面イメージ配信
- オーバービュー (小窓でパン)、プリンキング機能の実装
- 監視画面にテロップ表示、動的画面の切り貼り機能の実装
- システム更改における OS やフレームワーク間移植と 64 bit 化 など
- 背景地図、動的な複数レイヤ構成を使った監視画面
- CAD DXF ファイルのモデル化



Real-Time Visibility

年3回発行 2016年5月26日発行 通巻54号



株式会社 SL ジャパン

〒107-0062 東京都港区南青山3-8-5 アーバンプレム南青山 3階  
Tel. 03-3423-6051 info@sl-j.co.jp www.sl-j.co.jp

◆記載される会社名・製品名は、各社の商標または登録商標です。  
◆記載内容は予告なく変更されることがありますので、ご了承ください。  
◆記載事項の一部または全部の無断転載を禁じます。